

「生物多様性保全」に関する活動



私たちの3つの約束

PATIENT

すべての患者さんのために

PEOPLE

ともに働く仲間のために

PLANET

いのちを育む地球のために

タケダの生物多様性保全に向けた取り組み

▶ なぜ、タケダは生物多様性の保全に努めるのか

いまだ有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズ
(アンメット・メディカル・ニーズ)は数多く存在する

医療を支える医薬品の成分には5-7万種もの植物から
もたらされた物質が貢献^{※1}しているといわれている

2024年発表の「生きている地球指数(LPI)」では
1970-2020年で、野生生物の個体群は平均73%減少^{※2}

地球の生態系と人々の健康を守るために、タケダの
先端技術を結集し、環境に対する高い問題意識を
もって、世界をリードします。



「生物多様性保全」のために京都薬用植物園は何ができる？



90年以上保全し続けてきた植物遺伝資源を利活用
「生物多様性保全」に働きかける3つのアクション



「守る」

植物遺伝資源を守り、その植物と深いかかわり
のある地域や伝統文化も守っていく。



「つなぐ」

90年以上繋がれてきた植物種や技術を他施設
と連携し次世代へそして、世界へ繋いでいく。



「伝える」

植物を取り巻く多様なテーマに対して質の高い
情報をより幅広い世代に効果的に伝えていく。

事例1

京都大学科学教育研究上賀茂試験地と連携した 国際種子交換事業の推進

守る

つなぐ



1955年から始まった国際種子交換事業は、薬用植物や野生植物の種子を世界中の植物園と交換し、リスクを分散することで、生物多様性保全を推進しています。

これまでの実績

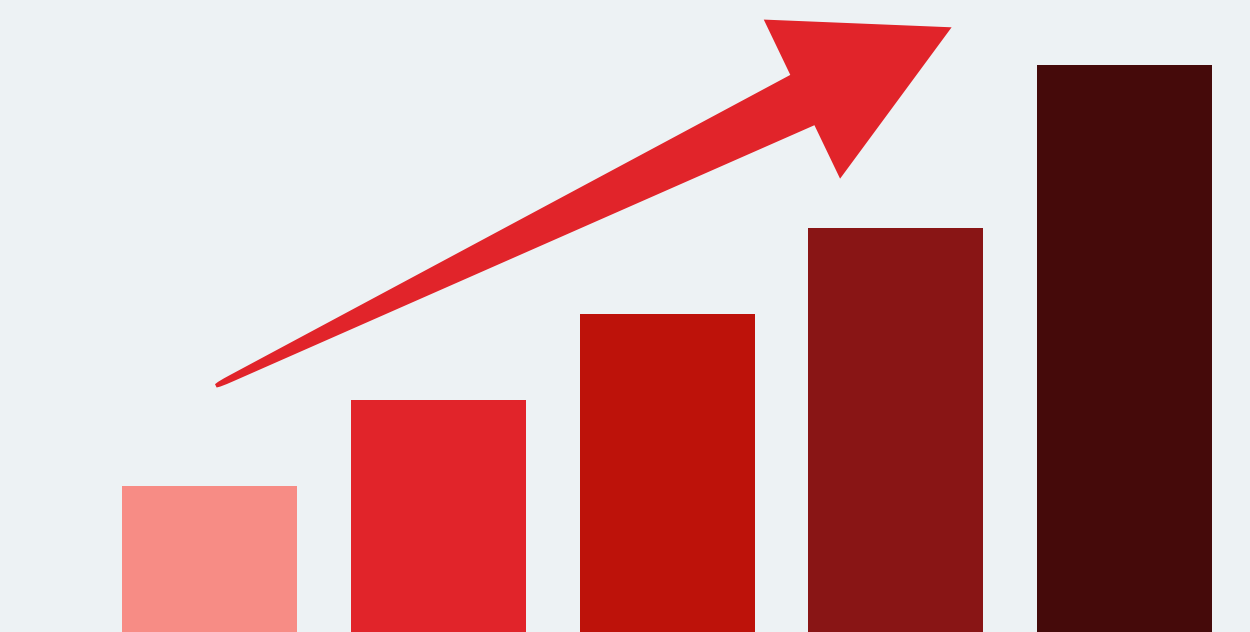
- ・ 交換先 … **67**カ国**400**機関
- ・ 種子リスト掲載種 … **176**種
- ・ 受注件数 … **25**カ国**78**機関



今後の目標

京都大学フィールド科学教育研究センター
上賀茂試験地との連携活動を強化

- ・ 交換先を世界6大陸に拡大
- ・ 国際種子交換事業の周知



▶ 種子交換事業を介したグローバルな取り組みを強化していく

京都水族館との 希少生物の保全・普及活動

当園と京都水族館がそれぞれ保有・飼育する絶滅の危機に瀕している植物と魚を交換し、当園の「**いきもの共生エリア**」と京都水族館の「**京の里山エリア**」にて展示しています。

これまでの実績

- ・ **京都府レッドリスト** 収載生物をトレード
- ・ 両施設の専門スタッフによるエリア開発
- ・ 双方の遺伝資源を同一エリアで展示
- ・ エリアを活用した普及イベントの実施



京の里山エリア(京都水族館)



いきもの共生エリア(京都薬用植物園)

今後の目標

環境省の「アユモドキ保護増殖事業」に参画することで、**環境省レッドリスト収載生物に関する保全普及を行う。**



▶ 両施設を訪れる人々に対して、生物多様性、絶滅危惧種の取り巻く環境について考えるきっかけを提供する。

京都に根付く伝統・文化を継承していくことでも
生物多様性保全のアプローチができると考え、多くのプロジェクトを推進しています。

上賀茂神社 葵祭への奉納



京の三大祭「葵祭」に欠かせない日本の固有種
「フタバアオイ」の保全・増殖に協力。

京の伝統野菜の系統保存



「京の伝統野菜」の系統保全について、
京の伝統野菜を管轄している京都市農林企画課と連携。



京都薬用植物園ではこれからも様々な活動プロジェクトを通して、
地域社会と連携し生物多様性保全の取り組みを継続していくことで、
より良い未来を目指していきます。